

2023年11月5日
宮崎中部教会召天者記念礼拝
牧師 乾元美

詩編 95 : 6~7

ローマの信徒への手紙 14 : 7~9

「生きるにも死ぬにも主のもの」

【招詞】 詩編 95 : 1~2

【讚美歌】 27 「父、子、聖霊の」

【詩編交読】 詩編 102 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 224 「われらの神、くすしき主よ」

【祈祷】

【聖書】 詩編 95 : 6~7、ローマの信徒への手紙 14 : 7~9

【説教】 「生きるにも死ぬにも主のもの」

<わたしたちのため>

今日の礼拝は、召天者記念礼拝として、神さまに礼拝をささげます。わたしたちは、先に地上の歩みを終えて、神さまの御許に召された、愛する人々、大切な人々を覚えます。

お一人の、共に日々を生きた、人生の部分と共にした、大切な人を、心に思います。

また、これまで、この宮崎中部教会で礼拝をささげてこられた、多くの兄弟姉妹。さらには、時代を共に歩むことはなかったけれども、この礼拝を、祈りと信仰によって守り、今のわたしたちへと受け継がせてくれた、教会の信仰の先達のことを、心に思い巡らせます。

召された方を心に思うことは、なつかしさ、あたたかさを覚えると共に、寂しさや、哀しみを、改めて掘り起こすようなことかも知れません。

でも、寂しければ寂しいほど、哀しければ哀しいほど、そこには、共に生きた喜びが、親しい関係が、かけがえのない愛が、確かにあった、ということです。

今日の礼拝は、そのようにして、わたしたちに命を与え、生かし、恵み豊かな関係を与え、信仰へと導き、救い、そして最後は、その命を御許に招いてくださる神さまを、賛美するための礼拝です。

わたしたちは、先に召された方たちのために、礼拝をささげるのではありません。召された方たちのために、救いや幸せを祈るのではありません。

なぜなら、地上の歩みから解放され、召された方たちは、もうすでに、神さまの御手の中に、完全に置かれているからです。

召された方については、わたしたちが、何を心配することはありません。むしろ、わたしたちよりもずっと近くに、神さまを見ておられることでしょう。

わたしたちは、その方たちを、神さまの御手に、まったくお委ねして良いのです。

ですから、召天者記念礼拝はむしろ、召された方たちに、神さまが、命を与え、信仰を与え、救いを与え、共に歩んで下さったこと。そして、わたしたちもまた、その恵み豊かな神さまの御手の中に、共にあることを覚えて、神さまに感謝し、賛美をささげる時なのです。

また、皆さんが心に思う方の中には、信仰は持たなかったけれども、家族が教会員であることから、教会で葬りの業をした、という方もおられるでしょう。また、教会とは関わりなく、人生を終えられた、愛する人を、心に覚える人もいます。

でも今、わたしたちは、この教会の礼拝の中で、神さまの御前で、祈りの中で、その方たちのことを思い浮かべているのですから、そういったお一人お一人をも、神さまが顧みてくださらないはずがありません。

わたしたちは、恵みと憐れみによって、神さまがきっと、わたしたちの愛する人々を、恵みの御手の内に置いて下さっていることを信じて、神さまをほめたたえたいのです。

そして何より、神さまをほめたたえることを通して、今ここに集うわたしたちが、信仰による希望を与えられ、慰めを与えられ、これからの歩みを、強められたいと願います。

<主のために>

さて、わたしたちは、召された方々を思う時に、生きること、死ぬことを考えます。

今、確かにわたしたちは生きています。では、何のために生きていますのか。そして、何のために死ぬのか。わたしたちの命は、どこへ向かうのか。死んだら、どこへ行くのか。このことを考えたことがない人は、いないのではないかと思います。

聖書は、これにはっきりと答えを示しています。ローマの信徒への手紙 14：7～8 には、このように語られていました。

「わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。」

さて、わたしたちは、本当に、そのように生きていますでしょうか。本当に、そのように死ぬのでしょうか。生きるにも、死ぬにも、主のため、と。

わたしたちは大抵、自分のため、または自分の大切な人のため、あるいは自分の信念などのために、生きていてのではないのでしょうか。「だれ一人自分のために生きる人も、死ぬ人もいない」とありますが、むしろ、この世で、自分以外のために、生きて、死ぬ人は、もったいないのではないのでしょうか。

でも、「わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです」とありました。イエスさまのために生き、イエスさまのために死ぬ。

それは、たとえば、伝道のために生涯をささげて、殉教して死ぬようなことなのでしょうか。そんな生き方をしなければならないのでしょうか。そうしなければ、死んだら、どこかよくわからないようなところに、行くことになってしまうのでしょうか。

しかし、この8節の「主のために」という言葉を、少し丁寧に見ると、英語の訳によっては、「わたしたちは、生きるとすれば主に対して生きている」、あるいは「主の方へと生きている」。そして、「死ぬとすれば主に対して死ぬ」「主の方へと死ぬ」となっています。

つまり、わたしたちは、生きることも、死ぬことも、主へと向かっている、ということなのです。わたしたちの生活、人生、命、死。生きることも、死ぬことも、この存在まるごとが、主に対して、主の方へと向かっているのだ。そう聖書は語っているのです。

<主となられた>

では、どうやってわたしたちは、生きることも、死ぬことも、主へと向かうことになるのでしょうか。それが、9節に語られています。「キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。」

つまり、キリストが、死んで、生きて、わたしたちの主となられた。わたしたちを支配する方となられた。だから、わたしたちは主に向かうものとなるのだ。主に向かうことが出来るのだ、というのです。そして、このキリストの他には、生きるにも、死ぬにも、向かうべきところはない、と言っているのです。

さて、ここには、「キリストが死に、そして生きたのは」とあります。

イエスさまは、わたしたちの主となられるために、わたしたちをご自分に向かわせるために、「死に、そして生き」ました。

普通、わたしたち人間は、「生き、そして死」にます。しかしキリスト、救い主である神の御子イエスさまは、死に、そして生きた。まことの人となってお生まれになり、わたしたちと同じように地上を生きて、「死に、そして生きた」のです。

「死に、そして生きた」というのは、イエスさまが、十字架で死に、その後、復活して、今も生きておられることを意味しています。

そしてそれは、「死んだ人にも生きている人にも主となられるため」でした。

わたしたちのために、わたしたちの主となられるために、神の御子は、地上を生きて、十字架で死に、そして復活して、生きたのです。

では、どうして、わたしたちの主となるために、イエスさまは十字架で死ななければならなかったのか。

それは、わたしたちが、罪や、滅びの死に支配されていたからです。わたしたちが、罪と死へ向かっていたから。それらが、わたしたちの主となってしまっていたからです。

わたしたちの罪。それは、わたしたちは本来、命を造ってくださった神さまに向かって、神さまを中心にして生きるべきなのに、その神さまから離れてしまうこと。そして、自己中心的に生きるようになることです。それが、聖書が語る「罪」です。

そうすると、神さまを愛し、隣人を愛しなさい、という神さまの御心からも離れて、わたしたちは自分勝手な歩み、自分ばかりを愛する歩みをしようとしています。

罪人同士で、互いに、自分の思いを主張し合い、競争し合い、退け合います。

あるいは、自分さえ良ければいいと、自分だけを守って、困っている人に無関心になったり、見捨てたりします。そして、人を傷つけ、自分も傷つけられ、誰とも喜んで共に生きられない、悲惨へと突き進んでいくのです。

そしてやがては、神さまから、ますます遠く離れ、滅びへ向かってしまうのです。

しかし、このような、わたしたちの罪と、滅びの死を、すべてイエスさまが、ご自分の十字架の死によって、引き受けて下さいました。そうしてイエスさまは、わたしたちを罪から解放し、わたしたちの心を、十字架のイエスさまの方へ、そして、そのイエスさまを遣わされた、父なる神さまの方へと、向き直らせてくださるのです。

そして、十字架で死なれたイエスさまは、父なる神さまに復活させられました。イエスさまは、死に、そして生きたのです。

このことによって、わたしたちは、イエスさまが、わたしたちを支配していた罪にも、そして滅びの死にも、勝利なさったことを示されました。

そして、イエスさまが、わたしたちを愛と命で支配して下さる、「わたしたちの主」となってくださったことが、明らかにされたのです。

「キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きていられる人にも主となられるためです。」

このようにして、イエスさまは、わたしたちの、まことの主となって下さいました。

この方が、わたしと共にいて下さるなら、わたしたちは罪を赦され、罪から解放され、滅びを免れ、自分の方ではなくて、イエスさまの方へ、神さまの方へ向かって、生きることができるようになります。

そして、イエスさまは、死に勝利なさった方ですから、わたしたちが、やがて地上の歩みを終え、死んでも、イエスさまは、わたしたちの主であり続けてくださるのです。

死は、わたしを支配することができません。死に勝利して復活なさったイエスさまが、わたしを支配して下さいます。

わたしたちは、いつか必ず、地上の歩みを終えて、死ぬでしょう。体は朽ちていくでしょう。しかし、わたしたちの存在は、わたしのすべては、主なるイエスさまのものであり、死んでも、この方と共にあり続けます。

そしてやがて、終わりの日が来ます。それは、救いの完成の日です。

その時、わたしたちは、イエスさまと同じように、復活させられ、栄光に満ちた、朽ちない体を与えられる。そう、聖書に約束されています。

そして、わたしたちは、イエスさまに結ばれた、愛する者たちと共に、すべての兄弟姉妹と共に、天の国で復活に与り、イエスさまと直接この目で相まみえ、父なる神さまの御前に立ち、すべての恵みをいただくことが出来るでしょう。

これが、わたしたちに与えられている救いなのです。

わたしたちは、生きて、死んで、終わるものではありません。

そこからさらに、生きるのです。死に、そして生きた、イエスさまが、わたしの主なので
すから。わたしたちもまた、死に、そして生きるものとされるのです。

この、イエスさまの救いを信じて、洗礼を受け、一たびこの方と、聖霊によって結ばれた
なら、わたしたちはこの方から、永遠に離されることはありません。

わたしたちは、どのようなときも、主なるイエスさまのものです。

これを信じていることが、救いなのです。ここに、世の苦難にも、哀しみにも、また死の恐れ
にも打ち勝つ、本当の希望と、慰めと、平安があるのです。

<主の御手に委ねて>

わたしたちは、この救いの恵みを、信じて受け入れるようにと、招かれています。

イエスさまが、すべての者のために死に、そして生きて下さいました。そうして、すべて
の者を、ここに居るわたしたちを、ご自分のものとして下さいました。

この主なるイエスさまを知り、救いの恵みを信じて、イエスさまに向かって生き、そして
死ぬことが出来る者は、まことに幸いです。

今わたしたちは、信仰の先達が、信仰を与えられて生きた、愛する人々が、その恵みに生
き、そして、その恵みに死んだことを思います。イエスさまのものとして、希望と、慰めと、
平安の中に置かれ続けていることを思い、神さまに感謝をささげ、ほめたたえます。

また、そのことを思うと同時に、洗礼を受けていなかったあの人、イエスさまを知ること
がなかったあの人のことを、思います。

しかし、わたしたちは、神さまが、ご自分の御子イエスさまを与えてまで、わたしたちを
罪と死から救ってくださるほどに、お造りになったわたしたち一人一人を愛して下さい
ということ。

また、イエスさまが、ご自分の命を惜しまず与えてまで、十字架の苦しみと死を引き受
けてまで、わたしたちの主となってくださるほどに、わたしたち一人一人を愛して下さる
方であることを知っています。

ですから、わたしたちは、召された大切な人を、信頼すべきこの方の御手に、この方の御
心に、すべてお委ねしたいと思うのです。

そして、何より大切なのは、今ここに居る、わたしたち一人一人が。今ここに居る、この
自分が、イエスさまの十字架と復活の御業によって、生きるにも、死ぬにも、イエスさまの
ものとされている、ということ。

そして、このことを信じるように、招かれている、ということです。

この招きを、わたしたちは、感謝と喜びを持って、受け入れたいのです。

わたしたちは、罪に捕らわれ、死に支配されているのではなく、神の御子イエスさまの救
いの御手に捕らわれ、命に支配されているのです。

だから、わたしたちは、主を信じ、主を礼拝し、主に向かって生きるものになりたい。そして、主に向かって死ぬものになりたい。主のものである幸いのうちに、復活の希望を抱きつつ、わたしのすべてを、主に委ねていく者になりたいのです。

生きるときも、死ぬときも、そして、終わりの日、復活が与えられるそのときも。

わたしたちは主に向かって、主と共に、主のものとして、歩んでいくことが出来るのです。

【お祈り】

わたしたちに命を与え、すべてを支配しておられる、天の父なる神さま

イエスさまの十字架と復活によって、わたしたちを主のものとして下さったこと。主に生き、主に死ぬ者として下さったこと。そして、永遠の命を与え、終わりの日の復活を約束して下さったことを、心から感謝いたします。

そして、わたしたちは今日、先に御許に召された、愛する兄弟姉妹を覚えます。その方たちが、イエスさまに結ばれて、主のものとして、その救いの恵みに支えられつつ、地上の人生を歩み、そして終え、イエスさまの御許にあることを、感謝いたします。

また、すべての命を支配なさるあなたが、すべての命を、あなたの愛の御手の中に置いていてくださることを、信じます。

主よ、どうか、わたしたちに信仰を与え、主に向かう者とならせてください。共にイエスさまに結ばれて、主のものとして、復活の希望を見つめる者とならせてください。

今日は聖餐の恵みにも与ります。パンと杯は、主に結ばれ、主の恵みに生かされていることの「しるし」であり、また主が再び来られる日に、復活を与えられ、天の食卓で共に見える、その恵みの先取りです。このことを通して、どうかまた、わたしたちの信仰と、希望とを、確かにして下さい。

そして、一人でも多くの者が、あなたの救いへの招きに応えて、洗礼を受け、共に、主のものなり、共にこの主の食卓に与ることが出来ますように、導いてください。

復活の主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【讚美歌】 5 1 8 「主にありてぞ」

【信仰告白】 ニカイア信条

【聖餐】

【讚美歌】 8 1 「主の食卓を囲み」

【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讚美歌】 2 8 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン